

新春メッセージ



長岡市長
磯田達伸

長岡あるある10選

思わず共感しちゃう？

市民のみなさんなら思わず「わかる！」となるくなる!?そんな長岡ならではの「あるある」を漫画で紹介。いくつ共感するかチェックしてみてください!

間広報・魅力発信課 39・2202



長岡花火は市民にとって年間で一番最大のイベント。花火を中心に1年が回っている感覺するある。

タイヤ替えた?が冬のあいさつの定番



雪が降るからスタッフレス必須。毎年冬が来る前に交換するが、みんなはいつ頃タイヤを替えるか実は気になっている。

赤飯は茶色が当たり前



長岡といえばしょうゆ味の茶色い赤飯。赤い赤飯だとがっかりしてしまう。

小学生で米作りを学ぶ



小学校で米作りを学ぶ「田んぼ教室」がある長岡。田植えから稻刈りまで体験するので、お米愛がすごい。

NEXT

新稻 ずなさん(ペンネーム)
東京都目黒区出身。2015年に夫の出身地である長岡へ移住。自身の体験をもとに都会とのカルチャーギャップを4コマ漫画にまとめた同人誌「ちほうとしぐらし!2021」や移住後にハマった市内の名物看板「松田ペット」の写真集を出版。

漫画の作者

学校の冬の体育はスキー授業(学校でスキーがうまいとヒーロー)



長岡ではスキー授業を行う学校も多い。市営スキー場や市外のスキー場へバスで行くが、スキーがうまいと一気にクラスのヒーローになれる。

新稻 ずなさん(ペンネーム)

新稻ずなさんの1コマ漫画は他にも市が運営する移住定住ポータルサイト内の「長岡ってどんなところ」に掲載中。次ページではポータルサイトの人気のコンテンツ「移住情報ブログ」を紹介!

枝豆はザルに山盛りスタイルが定番



大人も子どもも、とにかく枝豆をすごい量で食べる。田んぼのあぜなど隙あらば枝豆を植える。家族や知り合いで消費するから新潟県は作付面積日本1なのに出荷量は少ない。

明けましておめでとうございます。2026年、長岡市は市制施行120周年を迎えます。また、1月13日に与板地域の交流拠点施設「いこいね☆よいた」、5月に新たな戦災資料館が開館、秋にはミライ工長岡がフルオープンするなど、盛りだくさんの1年です。日本は今、人口減少や少子高齢化、デジタル化への対応など、歴史的な転換期にあります。安心して暮らせる活気あるまちを築くため、4月から始まる新しい総合計画の下、従来の発想にとらわれない取り組みや行財政改革を果敢に進め「選ばれるまち長岡」を目指してまいります。

新しい年が市民のみなさまにとって希望に満ちた1年となりますよう、心より祈念申し上げます。一緒に力を合わせて長岡の明るい未来を創っていきましょう。

新春企画

冬の天気はくもり=晴れ



日本海特有の気候で毎日どんよりした空だから、つかの間の晴れの日が幸せに感じる。

県外に出ると長岡の米口スになる



中高生は県外へ修学旅行した時に、初めて地元の米のおいしさに気付いて衝撃を受ける。

みんなが「があ」「があ」言っている



長岡弁はなんでも語尾に「があ」とつけるのが特徴。県外から来た人にビックリされる。

ラーメン愛がすごい



県外にもファンが多い「生姜醤油ラーメン」が有名な長岡は、ラーメンにうるさい人が多い。ラーメンネタで世代を問わず盛り上がり、おのの推しのラーメン屋がある。